



## 原発の事故対策はマニュアルにない

福島原発事故で

東日本大震災での福島原発の事故対応について、現場と東電の本社とのテレビ会議のビデオが公開された。それを巡ってマスコミは、官邸や本社の介入が現場を混乱させ、ベントの遅れなど対応の遅れを招いたと批判している。

事故対応マニュアル

もし、事故対応のマニュアルがあったなら、肅々とそれに沿って対応すれば良い。本社や官邸があればこれ云う必要は無かった。

マニュアルを作るには

マニュアルを作る場合、問題毎に対策を考えるだけでなく、その問題と対策が周辺に及ぼす影響も検討しな

ればならない。

原子炉から水蒸気や水素が洩れると、格納容器の圧力が上がる。上がり過ぎると格納容器が破裂するので、内部の気体を外に放出するのがベント。当然、大量の放射性物質を大気に放出する。

でも「ベントをする」とマニュアルには書く訳にはいかなかった。放射能をばらまく事は許されないから。

事故を想定しない

元々事故を想定せず、事故時のマニュアルも作っていないかったのだ。だから官邸や本社の判断が必要になったのだ。事故が起きたら多大な影響がある原発。それはもう全て即時停止するしか無いのではありませんか？ 皆さんはどう思われますか？

## 白馬乗鞍スキー場

長野県小谷村おたり



白馬コルティナススキー場から、南に散歩道を歩くと、雲の合間から唐松岳の山頂が見えた。

その手前には白馬乗鞍スキー場が拡がる。

一九七〇年代、団体で、この辺りにスキーに来たことがある。当時は冬になれば誰もがスキーかスケートをやっていった。

泊まったのは民宿。正に農家の家そのもの。大きな家の障子や襖だけが間仕切り。暖房といえば火鉢や炭団の炬燵だけ・・・。団塊の世代の大勢の若者が、四方から炬燵に足を突っ込んで寝ていた。

それらの「民宿」があか抜けたペンションにとつて変わられた。

今ではオーストラリアや韓国、中国からのスキー客も沢山来ている。